

平成14年度 特定港湾施設整備事業基本計画の特色

平成14年度の特定港湾施設整備事業基本計画の特色は、以下のとおりである。

1. 魅力ある都市・個性と工夫に満ちた地域社会の形成

我が国のゲートウェイである、中枢・中核国際港湾の機能を強化する。

大型化するコンテナ船に対応できる大型コンテナクレーンの整備を横浜港、博多港において着手するほか、清水港、広島港において引き続き整備を推進する。港湾サービスの向上に向けて導入した公社ふ頭における新方式、PFI方式と連携したふ頭用地整備を大阪港、北九州港において引き続き推進する。

地域産業の機能強化を図る。

米穀類、木材、鉱産品等地域産業に不可欠な貨物を取り扱う多目的国際ターミナルの形成のため、石巻港、苅田港等においてふ頭用地及び工業用地の整備を推進する。

2. 既存ストックの有効活用

港湾機能施設の陳腐化等に対応するため、施設の改良・転用を促進する。

船舶の大型化、荷役形態の変化等により陳腐化したふ頭を再編整備し、高規格コンテナターミナルへの再生を横浜港において推進する。港内再編及び岸壁の改良整備に伴い、横浜港、田子の浦港、神戸港において既存荷役機械の転用を図る。既存上屋の老朽化に対応し、苫小牧港、大阪港、境港において上屋の建替・改良を行う。